オリパラだより

令和２年１１月５日
練馬区立旭丘中学校
第３号

大蔵流狂言鑑賞教室（文化×触る）

「すぐれた文化芸術を小中学生たちに」を目的に、文化庁が主催する「文化芸術による子供育成総合事業」の一環として、１１月２日（月）、狂言師大蔵流狂言方の大蔵基誠さんとお弟子さんにお越しいただき、狂言鑑賞教室を行いました。９月には１年生と３年生を対象に大蔵流狂言のワークショップを行いましたが、今回は全校生徒で狂言を楽しみました。初めに狂言の歴史についてのお話があり、「附子」と「柿山伏」を鑑賞しました。初めて狂言を鑑賞する生徒も多く、聞き慣れない言葉や見慣れない所作も多くありましたが、それぞれがイメージを膨らませていました。鑑賞後には、２年生２名が代表して、狂言の立ち方・歩き方等の所作や、狂言における「馬」や「フクロウ」等の鳴き声や動作についての体験を行いました。最後には、「発声練習はするんですか？」、「狂言にはいくつぐらい演目があるんですか？」等の生徒からの質問にも答えていただきました。

今回、狂言を観たことで、日本の伝統文化への理解を深めることができたのではないでしょうか。狂言だけに限らず、多くの日本の文化に触れ、その良さを発信していきましょう。

≪ 生徒感想より ≫

- 将来、海外に関わりのある仕事に就きたいと思っているので、日本の文化をよく知って、いろいろな人に日本の文化を広めていきたいです。
- 発声練習をせずにいきなり始めることに驚きました。きっと日頃からいつでもできるように努力しているのだろうなと思いました。
- 一つの演目でも、見ている人によっていろいろな感じ方や想像の仕方があってすごいと思いました。他の演目も観に行ってみたいと思いました。
- 「附子」では、「見てはいけない・触ってはいけない」と言われると「見たくなる・触りたくなる」ことや、嘘を付いて独り占めしようとする人間の特徴がよく表れていて、親近感がわいてとても面白かったです。